

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 8 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究(A)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H05931

研究課題名（和文）金融資本主義化を乗り越えるイスラーム経済の新実践に関する国際比較研究

研究課題名（英文）New Horizons of Islamic Economic Practices beyond Capitalist Financialization

研究代表者

長岡 慎介（Nagaoka, Shinsuke）

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授

研究者番号：20611198

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、イスラーム世界で拡大しているイスラームの理念にもとづいた経済活動（イスラーム経済）に着目し、特に、新しいイスラーム経済実践の先駆例を取り上げ、その実態と特徴を解明することをめざしたものである。具体的には、マレーシア、インドネシア、トルコ、エジプトの4か国を取り上げ、これらの国でフィールドワーク（資料調査・聞き取り調査）を実施した。4年間の研究を通して、これら4か国の事例からは、従来のイスラーム金融が先導する現代イスラーム経済の発展モデルが見直され、金融セクターが実体経済や社会福祉と連携しながら、イスラーム型の持続可能な経済発展のあり方が模索されていることが判明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

イスラーム経済の新実践の観察をもとに本研究が描き出した新しいイスラーム型の持続可能な経済発展モデルは、イスラーム金融を頂点に戴く従来からのイスラーム経済システムの存立構造の転換を迫る画期的な取り組みであり、そこに金融資本主義化を乗り越える独自のイスラーム経済システムの構築の21世紀可能性を見いだすことができる。このことは、イスラーム世界の社会や文化に根ざした独自の発展経路のあり方としてだけでなく、地球社会全体にとってのポスト資本主義的な発展モデルの探究においても、有力な参照軸になりえると思われる。

研究成果の概要（英文）：This research focuses on the economic activities based on the idea of Islam (called Islamic economy) which are expanding throughout the modern Islamic world, and mainly picks up the new practices of the Islamic economy with observing the pioneering cases in Malaysia, Indonesia, Turkey and Egypt. These case studies in these four countries show that the new practices reconsider the conventional Islamic development model which are initiated by Islamic finance, and try to build new sustainable development models by cooperating with real economy, social welfare sectors.

研究分野：イスラーム経済論

キーワード：現代イスラーム経済論 イスラーム金融 伝統制度の再活性化 金融資本主義

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

現代イスラーム経済とは、イスラームの理念にもとづく経済システムを現代世界に再構築することをめざす実践である。イスラーム世界が、欧米列強からの自立を模索し始めた 20 世紀初頭から、様々な人々によってイスラーム経済の実践が構想され、1970 年代にイスラーム金融の商業実践の開始という形で最初に具体化された。イスラーム金融は、イスラーム世界各地に急速に浸透していき、21 世紀に入るとその成長は加速し、マレーシアや中東湾岸諸国では国内金融市場の 2 割以上の市場シェアを獲得するなど、その重要性はますます大きくなってきている。また、欧米の大手金融機関（シティグループ、HSBC など）や国際金融センター（ロンドンや香港、シンガポール）も、相次いでイスラーム金融市場に参入しており、イスラーム金融は、国際金融システムの一角を占めるようになってきている。

このようなイスラーム金融の急成長に対して、批判的な意見も数多く寄せられるようになった。具体的には、イスラーム金融が従来型金融との競争力を高めるために開発した金融商品（例えば、イスラーム型デリバティブ、イスラーム債券）が、単なる従来型金融商品の模造に過ぎず、イスラーム金融が本来依拠すべきイスラームの理念を置き去りにしているという批判である。本研究代表者は、金融史的研究において、このようなイスラーム金融の現状を「イスラーム経済の金融資本主義化」と名付けた。

このイスラーム経済の金融資本主義化に対する批判を受けて、イスラーム金融は、自らの社会的役割を重視する新しい事業を開拓している。本研究代表者は、そのような先駆的取り組みとして、直近の研究プロジェクト（学術研究助成基金助成金（若手研究（B）課題番号 25760004）「イスラーム金融を利用した伝統的経済制度の再活性化とその現代的意義をめぐる研究」平成 25～27 年度）において、イスラーム金融によるワクフ [寄進財産を活用した相互扶助制度]、ザカート [喜捨にもとづく富の再分配制度] といった伝統的なイスラーム経済制度の再活性化の取り組みに着目し、イスラーム金融がどのようにコミュニティの福祉や信徒の生活の改善に寄与しようとしているのかを実証的に考察した。

しかし、研究プロジェクトを通して次第に判明してきたのは、イスラーム金融が自らの社会的役割を重視し、新たな事業に取り組んでいる以上に、その事業対象となっている他のイスラーム経済アクターが、より主体的に社会に根ざした新たなイスラーム経済の発展モデルの形成に寄与しうる萌芽的な実践を始めているということであった。そこで、そうした金融以外の様々な経済アクターに着目して、生起しつつある新たなイスラーム経済の発展モデルの全容を解明すべきと本研究プロジェクトを着想した。

2. 研究の目的

以上の研究の背景を踏まえて、本研究では、金融以外の様々なイスラーム経済アクターに着目し、（1）それらが取り組み始めている新しい主体的実践の実態を解明し、（2）そのような実践が金融資本主義化を乗り越えるどのような新しいイスラーム経済の発展モデルを構想しうるのであるのかを考察する。

3. 研究の方法

上記の（1）については、主に、ワクフやザカートを管理する相互扶助団体、イスラーム教徒向けのビジネスを手がける中小企業に着目し、それらが新旧様々なネットワーク（イスラーム金融、町内会など）を活用しながら主体的に取り組んでいる萌芽的実践（例えば、より効果的な相互扶助・慈善活動の実施、地場産業とグローバルな流通を結びつける試み）の実態を調査する。

（2）については、新しい実践どうしが形成しているネットワークの構造や、その結節点に位置するイスラーム金融が、新しい実践に対応して自らの社会的ミッションをどのように再定義しようとしているのかを解明しながら、それらから浮かび上がる新しいイスラーム経済の発展モデルの 21 世紀的特徴を理論的に考察する。

このような新しい実践は、イスラーム世界の各地で様々に取り組まれていることが予想される。そこで、本研究では、各地域の研究者や実践に関わる当事者たちと連携を取りながら現地調査を実施し、地域間比較を行う。比較の参照軸として、新しい実践の主要な牽引アクター、イスラーム金融との関わりの大小を用い、下表の 4 つのカテゴリーに実践を区分する。そして、各実践の先駆例・典型例とされる 4 か国を取り上げ、現地調査・地域間比較を実施する。

イスラーム金融との関わり		大	小
実践の牽引アクター	トップダウン型	マレーシア	トルコ
	ボトムアップ型	インドネシア	エジプト

4. 研究成果

以下では、各年度の実施内容をまとめた上で、研究課題全体の成果を述べることにする。

2016 年度は、トップダウン型の新しいイスラーム経済実践の実態解明に重点的に取り組んだ。その先駆例として、トルコ（2016 年 8 月）とマレーシア（2016 年 2 月）で現地調査を実施した。

また、2016年9月には、シカゴ大学、米議会図書館にて関連資料の収集を行った。トルコでは、最大都市イスタンブールにて調査を実施した。2016年7月のクーデター未遂の影響でイスラーム銀行の1つが閉鎖に追い込まれたものの、金融セクターを中心としたイスラーム経済の伸張は堅調に続いているだけでなく、現在の金融資本主義化する世界全体のイスラーム経済の実践の動向に抗して、実体経済セクターのリーダーシップによるイスラーム経済の振興がさかんに議論されていることが判明した。マレーシアの調査では、政府の強力なイニシアティブによって、イスラーム金融が推進されてきたが、その充実したインフラを活用したイスラーム相互扶助団体やイスラーム・ビジネスが近年、同じく政府の強力な支援の下で整備されてきていることが判明した。本研究で焦点を当てた、国内最大規模の相互扶助団体を抱えるスランゴール宗教評議会(MAIS)では、州内のみならず州外から徴収したザカート(喜捨)の効率的な配分を実施するために、州を越えた連携が取られ始めていることも明らかとなった。また、シカゴ大学と米議会図書館で行った文献調査によって、本研究に関わる英語、アラビア語、ウルドゥー語の文献を入手できたことで、イスラーム経済の新実践に関する既存研究のレビューを進めることができた。

2017年度は、ボトムアップ型の新しいイスラーム経済実践の実態解明に重点的に取り組んだ。その先駆例・典型例であるエジプトでフィールドワークを実施した。また、2017年12月には、米議会図書館にて関連資料の収集を行った。長らく独裁体制が続く、貧困層に対する社会福祉政策がほとんど行われてこなかったエジプトでは、ムスリム同胞団が手厚い慈善・相互扶助活動を担ってきた。しかし、アラブの春以降の政変によってムスリム同胞団が社会の表舞台から退いてしまい、その後の公的福祉を補完する担い手については十分に解明されてこなかった。フィールドワークでは、同胞団以後のイスラーム型草の根福祉の実態について首都カイロの各所でサーベイ調査を行った。本年度の後半には、これまでの研究の中間成果を取りまとめ、国内外の専門と意見交換を行うための比較研究国際ワークショップを京都大学で開催した。本資金では、インドネシアから1名、トルコから2名の研究者を招聘し、イスラーム経済の新実践に係る各国の事例研究の比較検討を行った。さらに、2017年11月には、マレーシア・サラワク州で開催された世界イスラーム経済フォーラムに出席し、イスラーム経済の各国の実践の最前線の状況についての情報収集や人的ネットワークの構築を行った。また、前年度に続いて本研究に関わる英語、アラビア語文献の収集を精力的に行った。

2018年度は、前年度に続いて、ボトムアップ型の新しいイスラーム経済実践の実態解明について取り組み、インドネシアでフィールドワークを実施した。そして、それまで行ってきたボトムアップ型の新しいイスラーム経済実践についての調査にもとづいて、比較研究国際ワークショップを開催した。具体的には、2018年6月に京都大学、および同年7月に英国ダラム大学において2回ワークショップを開催し、新しいイスラーム経済実践の実態、課題、可能性について海外の研究協力者と議論を行った。そこでの事例報告とディスカッションを通じて、近年のボトムアップ型のイスラーム経済実践は、単なる草の根的なローカルな取り組みにとどまらず、サイバー空間を活用したクラウドファンディングに代表される最新の金融技術(フィンテック)を積極的に活用していることに注目が集まり、地理的制約を超えたグローバルな実践に結実していることが明らかになった。これらのワークショップの成果にもとづいて、申請者と研究協力者による英語論文特集を『イスラーム世界研究』に掲載した。この2回のワークショップに加えて、国際会議での研究報告を2回行った。また、前年度に続いて本研究に関わる英語、アラビア語文献の収集を精力的に行った。

2019年度は、以下の4点に取り組んだ。第1に、本研究の総括国際シンポジウムを京都大学で開催した。具体的には、2019年9月24日、25日に国内外から22名の発表者(海外から9名、国内から13名)が参加するイスラーム経済国際ワークショップを開催し、本研究が対象として集中的に調査・分析を行った4カ国(マレーシア、インドネシア、エジプト、トルコ)における新しいイスラーム経済実践の実態について、これらの国の研究者・実務家および他の国を調査している研究者との間で議論を行った。このワークショップの議論からは、上記4カ国における新実践(トップダウン型新実践、ボトムアップ型新実践)は、本研究が行われた4年の間に他の国にも浸透し始めるとともに、それらがサイバー空間などによってトランスナショナルに結合・融合してきている動態が明らかになった。第2に、上記のワークショップを踏まえて、フォローアップ調査をヨルダンおよびアラブ首長国連邦、シンガポールにて行い、上述のトランスナショナルなイスラーム経済の新実践の広がりがこれらの国々においても浸透しつつあることを確認した。第3に、上記のワークショップでの研究発表に加えて、2019年4月にフランス・パリにて、2019年10月にマレーシアにて、2020年2月に大阪にて研究発表を行い、本研究の成果に関するフィードバックを参加した研究者から得た。第4に、本研究の最終成果として日本語および英語による書籍の出版準備に取りかかり、2020年度中の出版にめどをつけた。

以上の4年間にわたる研究活動からは、トップダウンであれ、ボトムアップであれ、フィールドワークの対象となった4カ国で従来のイスラーム金融が先導する現代イスラーム経済の発展モデルが見直され、金融セクターが実体経済や社会福祉と連携しながら、イスラーム型の持続可能な経済発展のあり方が模索されていることが判明した。これまでイスラーム経済を牽引し、金融資本主義化という批判を受けていたイスラーム金融も、こうした実体経済セクターや社会福祉セクターを巻き込んだ持続的な社会の発展に寄与すべく、ミッションを再定義し、新

しい金融商品を新しい情報通信技術を活用しながら、自らも新しい発展モデルを模索していることも明らかとなった。そして、こうした取り組みは、今や、この4か国にとどまらず、サイバー空間などを通じてイスラーム世界全体に広がっていることも明らかになった。

イスラーム経済の新実践の観察をもとに本研究が描き出した新しいイスラーム型の持続可能な経済発展モデルは、イスラーム金融を頂点に戴く従来からのイスラーム経済システムの存立構造の転換を迫る画期的な取り組みであり、そこに金融資本主義化を乗り越える独自のイスラーム経済システムの構築の21世紀可能性を見いだすことができる。このことは、イスラーム世界の社会や文化に根ざした独自の発展経路のあり方としてだけでなく、地球社会全体にとってのポスト資本主義的な発展モデルの探究においても、有力な参照軸になりえると思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 長岡慎介	4. 巻 なし
2. 論文標題 「イスラーム金融」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『大学生・社会人のためのイスラーム講座』（ナカニシヤ出版）	6. 最初と最後の頁 148-164
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Zurina Shafii and NAGAOKA Shinsuke	4. 巻 12
2. 論文標題 Malaysian Practice of the Islamic Economy at a Crossroads: Issues and Challenges: Editors' Preface	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『イスラーム世界研究』	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 長岡慎介	4. 巻 なし
2. 論文標題 「現代イスラーム経済の挑戦 ポスト資本主義時代の新たなパラダイムのために」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 村上勇介・帯谷知可編『秩序の砂塵化を超えて 環太平洋パラダイムの可能性』（京都大学学術出版会）	6. 最初と最後の頁 221-248
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shinsuke NAGAOKA	4. 巻 なし
2. 論文標題 "The Future of Capitalism and the Islamic Economy"	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Stomu Yamash' ta, Tadashi Yagi and Stephen Hill eds. The Kyoto Manifesto for Global Economics: The Platform of Community, Humanity, and Spirituality (Springer)	6. 最初と最後の頁 395-415
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長岡慎介	4. 巻 91(2)
2. 論文標題 「岐路に立つイスラーム金融 異端派が切り開く新たな将来ビジョンとポスト資本主義時代におけるその可能性」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『宗教研究』	6. 最初と最後の頁 177-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 14件)

1. 発表者名 Shinsuke Nagaoka
2. 発表標題 Impact of Islamic Economic Movement in Global History: Alternative or New Universal Paradigm?
3. 学会等名 Le cadre du seminaire L' islam et le nouvel esprit du capitalisme (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shinsuke Nagaoka
2. 発表標題 How Can We Overcome the Financialization of Islamic Economic Practices? Issues and New Horizon's
3. 学会等名 International Workshop Diversity of Asian Capitalisms: An Islamic Pattern. Its principles and practices (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shinsuke Nagaoka
2. 発表標題 Japanese and Asian Perspectives of Islamic Economic Markets: Towards a New Path for Sustainable Development
3. 学会等名 Conference organisee par la Fondation France-Japon de l' EHESS (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shinsuke Nagaoka
2. 発表標題 What Can We Learn from the Economic Wisdom of Islam? Its Implications for Our Next-Generation Global Society
3. 学会等名 Le seminaire L'islam et le nouvel esprit du capitalisme (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shinsuke Nagaoka
2. 発表標題 Islamic Finance in Global History: Toward Comparative Studies of the History of Interest
3. 学会等名 13th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance New Horizons in Islamic Economics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shinsuke Nagaoka
2. 発表標題 Islamic Economics Coming Back to Adam Smith? The Future of Capitalism from an Islamic Perspective
3. 学会等名 10th International Symposium on Islam, Civilization & Science (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shinsuke Nagaoka
2. 発表標題 Revitalization of Waqf and its Potential to Design a Post-Capitalist Economy
3. 学会等名 International Workshop on Waqf Revitalization (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shinsuke Nagaoka
2. 発表標題 Why Doing Islamic Economic Studies in Kyoto?
3. 学会等名 30th SASE Annual Meeting: Global Reordering: Prospects for Equality, Democracy and Justice (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shinsuke Nagaoka
2. 発表標題 Reconsidering the Concept of Capitalism from an Islamic Perspective
3. 学会等名 12th Durham-Kyoto International Workshop in Islamic Economics and Finance New Horizons in Islamic Economics
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shinsuke Nagaoka
2. 発表標題 Reconsidering the Intellectual Heritage of Islamic Economic Studies in Japan and France
3. 学会等名 Global Islamic Market: Asian Perspectives on the Diversity of Capitalism
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shinsuke Nagaoka
2. 発表標題 Revisiting the Malaysian Evolution of 'Mudaraba Consensus' in Islamic Economics and Finance: Challenges and New Horizons
3. 学会等名 Kyoto University International Symposium: Japan-Malaysia Initiatives on New Asian-Islamic Civilizational Paradigm
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shinsuke NAGAOKA
2. 発表標題 "Reconsidering the Future of Capitalism from an Islamic Perspective"
3. 学会等名 8th International Symposium on Islam, Civilization & Science (於：マレーシア国民大学) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shinsuke NAGAOKA
2. 発表標題 "Reconsidering 'Murabaha Syndrome': Despair or Faint Hope for the Future of Islamic Economics?"
3. 学会等名 11th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance New Horizons in Islamic Economics (於：京都大学) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shinsuke NAGAOKA
2. 発表標題 "Universalizing the Islamic Economic Knowledge: Issues and Challenges"
3. 学会等名 Roundtable Discussion on Halal Economy: Empowering Halal in Malaysia and Japan (於：マレーシア、サラワク州、クチン、ブルマン・ホテル)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shinsuke NAGAOKA
2. 発表標題 "Reconsidering the Practice of Islamic Finance in Southeast Asia: Bridging the Dichotomy between the Idea and the Reality"
3. 学会等名 Southeast Asian Center Seminar (於：ソウル大学東南アジアセンター) (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shinsuke NAGAOKA
2. 発表標題 "The Future of the Islamic Economy: Alternative System or New Economic Paradigm?"
3. 学会等名 International Conference on Islamic Awakening (於: モルディブ・イスラーム大学) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shinsuke NAGAOKA
2. 発表標題 "Universalizing the Wisdom of Islamic Economics for the Reform of Capitalism"
3. 学会等名 Global Forum on Islamic Economics, Finance and Banking 2018 (於: パキスタン、ラホール、Faletti's Hotel) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shinsuke NAGAOKA
2. 発表標題 Universalizing Islamic Economic Knowledge for the Next-generation Global Economic System
3. 学会等名 10th Durham-Kyoto International Workshop in Islamic Economics and Finance (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Shinsuke NAGAOKA
2. 発表標題 How can Islamic Economic Knowledge Contribute to the Next-generation Global Economic System?
3. 学会等名 International Joint Conference on Islamic Economics and Finance in Istanbul (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Shinsuke NAGAOKA
2. 発表標題 Creating New Economic Paradigm from Islamic Economic Knowledge
3. 学会等名 7th International Symposium on Islam, Civilization, and Science and Development
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 Shinsuke Nagaoka, Mari Adachi, Nur Izzati Binti Mohamad Norzilan	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Hadhari Center for Islamic Civilizational Studies at Kyoto University	5. 総ページ数 68
3. 書名 New Waves of Islamic Social Welfare in Southeast Asia	

1. 著者名 長岡慎介	4. 発行年 2017年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 223
3. 書名 『お金ってなんだろう？ あなたと考えたいこれからの経済』	

1. 著者名 長岡慎介	4. 発行年 2016年
2. 出版社 成文堂	5. 総ページ数 284
3. 書名 「何が / 誰がイスラーム金融を作るのか 理念と現実をめぐるダイナミズムと多様性」アジア法学会編 『現代のイスラーム法』198-220頁	

1. 著者名 長岡慎介	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 392
3. 書名 「イスラーム経済論」私市正年・浜中新吾・横田貴之編『中東・イスラーム研究概説 政治学・経済学・社会学・地域研究のテーマと理論』86-95頁	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----